

1. 概要

【目的】フィリピンの青少年が両国に共通する自然災害の脅威や気候変動分野の課題への対策について学び、意見交換・交流を行うことにより、民間における日フィリピン関係の裾野の拡大を主目的に、本プログラムを実施しました。

【参加者】フィリピンの高校生・大学生・社会人 計 254 名

【訪問地】長崎県、宮城県、東京都、岩手県

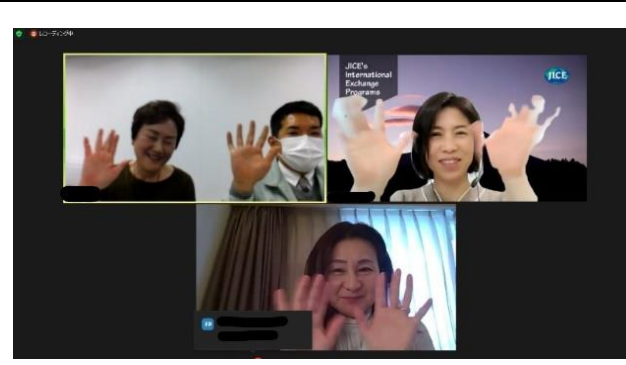
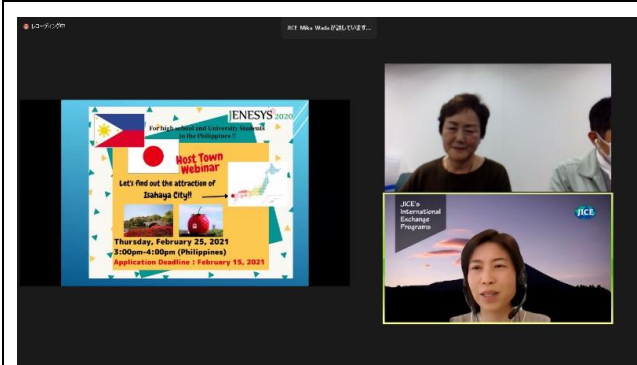
【日程】

日付 訪問地	内容	参加者の質問・反応
2021 年 2 月 25 日 長崎県 諫早市	(他のプログラムと合同実施) 【ウェビナー・質疑応答】 フィリピンの高校生・大学生・社会人 122 名 1. 講義・VTR 視聴 「フィリピンホストタウンの諫早市による地域魅力紹介講義」 講師：いさはや国際交流センター 事務局長 岩本 頼子氏 2. 質疑応答	ホストタウンとしてフィリピンのアスリートを受け入れた際の良かった面や課題、また、オリンピック・パラリンピック競技大会以外での交流プログラムの実施予定等についての質問がありました。
2021 年 5 月 28 日 宮城県 石巻市	(他のプログラムと合同実施) 【ウェビナー・質疑応答】 フィリピンの高校生・大学生・社会人 120 名 1. 講義 「東日本大震災における石巻市の状況とその後の復興について」 講師：石巻市復興まちづくり情報交流館中央館 館長 リチャード・ハルバーシュタット氏 2. 質疑応答	地震から津波までどれくらい時間がかかったのか、石巻市が復旧するまでにどれくらい時間がかかったのか、石巻市は市民の精神面での支援を行ったか、災害を経験していない人々に対してどのように地震や津波について伝えていくか等の質問がありました。
以下 7 日間の参加人数：14 名（以下のプログラムは他のプログラムと合同で実施）		

2022年 2月15日 ～	【動画視聴】 1. 外務省挨拶 2. 南三陸町からのメッセージ 3. 日本文化理解（京都） 4. 日本語学習	プログラムへの理解を深めるため、参加者は日本やプログラムに関する動画を視聴してから参加しました。
2022年 2月22日 東京都	【オリエンテーション】【ウェビナー・質疑応答】 1. オリエンテーション 2. 講義 「日本の社会と文化」 講師：アンドラディ 久美氏 3. グループ別交流	オリエンテーションで、参加者が本プログラムにおける参加者の役割・ミッションについて正しく理解することから始まりました。講義では、日本の地勢・気候、日本人と社会の特徴、文化、日常生活について多くの写真や事例、実演を含めた内容に、参加者は高い関心をもって聴講していました。質問では、「新型コロナウイルス感染症が日本に与える影響」「日本文化、技術」「日本で外国人留学生在が直面する問題」など多岐に渡る質問がありました。
2022年 2月23日 岩手県陸前高田市	【防災視察ツアー】 視察先：陸前高田市 1. 視察 2. 質疑応答 3. 参加者代表によるお礼の挨拶	被災地からのライブ中継、被害状況や復興過程の説明、防災まちづくりの視察ツアーに、自然災害が多発する国からの参加者は、大変関心が高い様子でした。「防風林に植える木の種類」「復興の状況や被災者のケア」「開発による災害リスクへの影響」等、災害を身近に感じている参加者から多くの具体的な質問がありました。
2022年 2月24日 岩手県陸前高田市	【ホームビジット】※任意参加 1. ホストファミリー紹介 2. ホストファミリーと交流 3. 感想発表	参加者は終始興味深そうな様子でした。ホストファミリー手作りの郷土料理の紹介を大変喜んでいました。参加者からは、「仏壇は何のためにありますか」「雪はいつ頃まで残っていますか」等多くの質問がありました。
2022年 2月25日 岩手県 東京都	【学校交流】 岩手大学、立教大学（東京都） 1. 交流校によるプレゼンテーション 2. 参加者によるプレゼンテーション 3. グループ別交流 4. 参加者代表によるお礼の挨拶	交流校、参加者による自国紹介のプレゼンテーションを相互に行い、自国との違いを学びました。グループ別交流では、学校生活や、趣味、好きなアーティストなどについて盛り上がっていました。参加者は同世代との交流を楽しんだ様子でした。
2022年 2月26日	【ワークショップ】 1. アクション・プランの作成	サブリーダーが効率的に進めるため、率先してワークシートを作成し、それをインタ

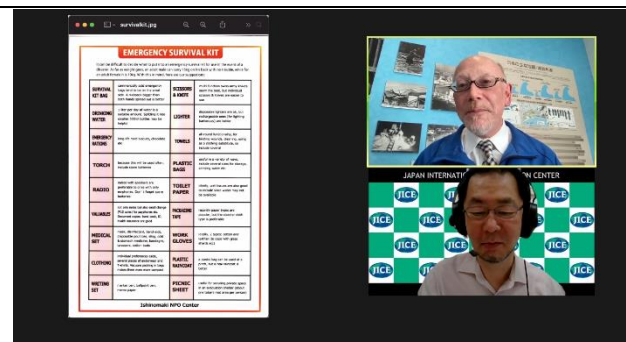
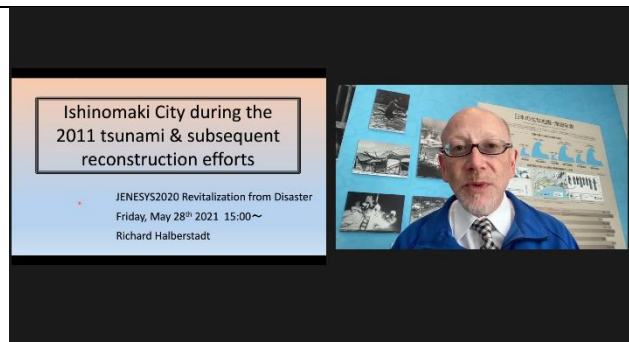
東京都	2. 報告会に向けた発表準備	一ネット上で共有しながら、各自のワークシートに要点を書き込み、内容を分類して、発表資料を作成しました。全員が真剣に取り組んでいる様子でした。
2022年 2月28日 東京都	【報告会】 1. 開会 2. アクション・プランの発表 3. 講評 4. 閉会	各グループで意見を出し合いながら作成したアクション・プランの発表を聞き、参加者同士で称え合っていました。中には話が巧みな発表者が参加者を盛り上げるなど、一体感を感じる発表会でした。

2. 記録写真



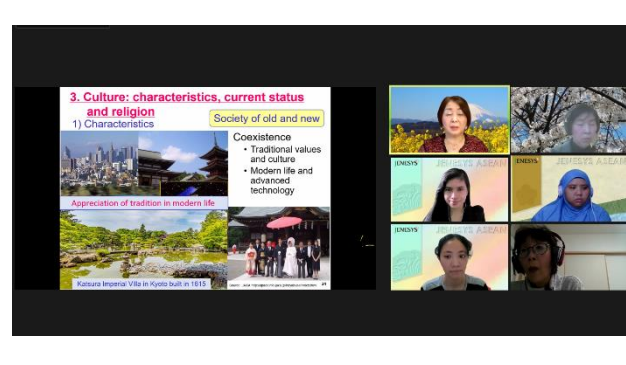
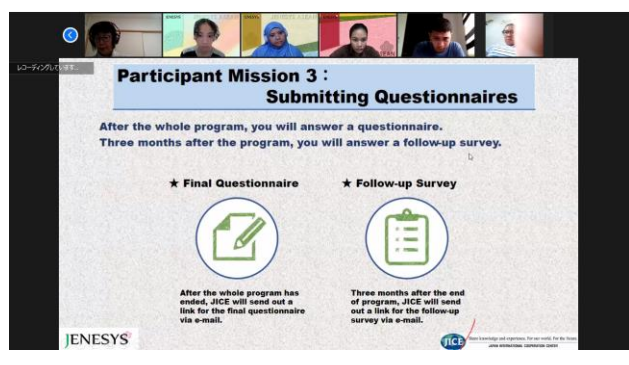
2021年2月25日【ウェビナー・質疑応答】講義の様子

2021年2月25日【ウェビナー・質疑応答】講義の様子



2021年5月28日【ウェビナー・質疑応答】講義の様子

2021年5月28日【ウェビナー・質疑応答】講義の様子



2022年2月22日【オリエンテーション】	2022年2月22日【ウェビナー・質疑応答】講義の様子
	
2022年2月23日【防災視察ツアー】視察の様子	2022年2月25日【学校交流】参加者によるプレゼンテーション
	
2022年2月28日【報告会】プレゼンテーションの様子	2022年2月28日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 参加大学生

ホストタウン講義は、とても有益で面白かったです。私は、自然が好きなので、動画を通してまちな風景を見た後は、本当に満足感がありました。講師の方からも地域の魅力など多くのことを学ぶことができました。

◆ 参加高校生

テーマ理解講義では、震災における被害の大きさや、日本の政府が被災地の復興にどのように対応しているか等を学ぶことができました。

◆ 参加大学生

とても勉強になり、刺激を受け、防災に関する知識を得ることができました。実際に3.11の津波を経験した方の体験談を聞くことができ、良かったです。私は当時、津波に関するニュースを見て、津波を経験した人のことを考えていたことを覚えています。

◆ 参加社会人

マグニチュード9の地震と津波に見舞われた石巻市の経験について、多くの新しい情報を学び、とても勉強になりました。石巻市の経験は、今後私たちが予期せぬ自然災害に遭遇したとき、どのように備え行動するべきかについての最も信頼できる礎になると思いました。

◆ 参加大学生

このオンラインプログラムは、日本文化や日本社会についてよく知ることができる素晴らしい機会でした。自分のコミュニティの防災法の改善について考える良い機会になりましたし、とても効果的で有益なプログラムでした。対面でのプログラムや、参加者がプログラムで出会った日本人や学生とプログラム終了後も交流できる機会があればさらに良いと思いました。また事前に翻訳された日本人参加者からのメッセージを頂けたらと思います。でも、とてもよく準備された良いプログラムでした。このオンラインプログラムを準備して下さった皆さま、ありがとうございました。

◆ 参加大学院生

非常に好印象だったのは、JICEのコーディネイト・チームの調整力と専門性です。すべてを英語に通訳・翻訳することは容易ではなく、まして複数の国々の人が対象となればなおさらですが、すべてスムーズで内容の濃いプログラムでした。私が経験したことをもっと多くの人が体験できるよう、宣伝資料を増やし、より多くの参加者を募ると良いと思います。マーケティングを成功させれば、このプログラムは主流でより大きな規模に発展すると確信しています。もっと多くの人に体験してほしいプログラムでした。

◆ 参加大学生

オンラインプログラムはとても素晴らしく、自分の安全地帯から踏み出して色々な人に出会う良い機会となりました。特に日本の学生と会話をした3日目が良かったです。ホームビジットにも参加したかったのですが、他の用事があり参加できず残念でした。トピックを増やし、日本の都会と地方がどのような所なのかが見られるようなツアーがあったら良いと思います。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 受入れ自治体

諫早市にとって初めてのオンライン交流でしたが、細やかなご配慮のお陰で不安なく実施できました。ありがとうございました。

◆ 視察先

今回このプログラムに初めて参加しました。新型コロナウイルス感染症が蔓延する前まで交流を中心とした事業を展開していた弊社としては、このような機会を頂け大変有難かったです。特に、陸前高田市は対面での民泊・ホームステイが定着し始めていたところ、新型コロナウイルス感染症の影響でその気運が一旦白紙となってしまいました。オンラインではありますが、交流を通して地域の受入家庭も「久しぶりに刺激があって、楽しかった」という声がありました。また、「海外の人だ

から緊張したけど、話してみても日本の学生と変わらないね」と言うコメントが多数あり、他国異文化への理解も深まったと感じました。

◆ 受入れ先家庭

改めて質問されると、説明できないことがありました。なぜ仏壇で鈴を鳴らすのか、雛人形の意味等の質問がありましたが、「日本の子たちと変わらないな」と、強く思いました。

◆ 交流校学生

海外の参加者のプレゼンテーションを聴きました。日本人学生に対するフィリピンの紹介でしたが、それが非常に面白く、日本との文化の違いはもちろん感じましたが、同時に日本を紹介する場合の参考にもなりました。そして、その紹介内容から話題がたくさん生まれたので、良い交流ができたと感じました。

◆ 交流校学生

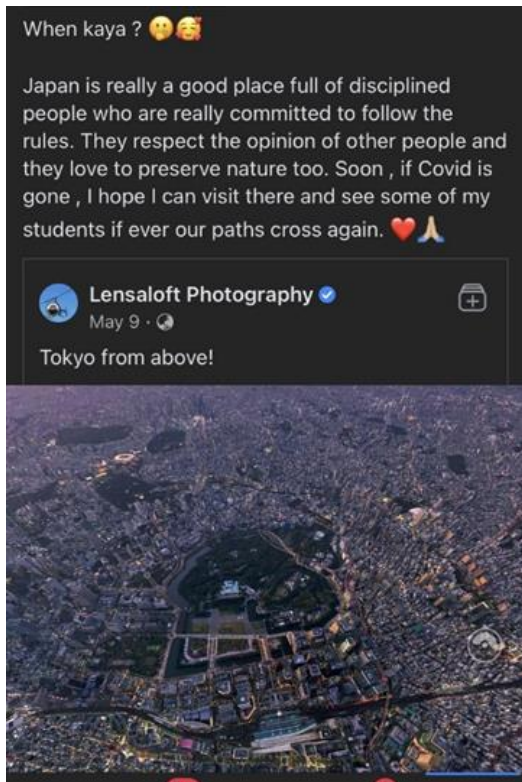
グループディスカッションをする前に、各国の紹介があり面白かったです。日本の学生にクイズを出す形式もよかったですと思います。

5. 参加者の対外発信

<p>2021年2月25日 講義についての発信（Facebook） 日本でのフィリピンのホストタウンである諫早市。ご存知ではない方もいらっしゃると思いますが、諫早市は東京オリンピックのフィリピン</p>	<p>2021年2月25日 講義についての発信（Facebook） フィリピンホストタウン・オンラインプログラム。インターネットで検索される日本の都市の多くは東京都と大阪府ですが、長崎県諫早市の</p>

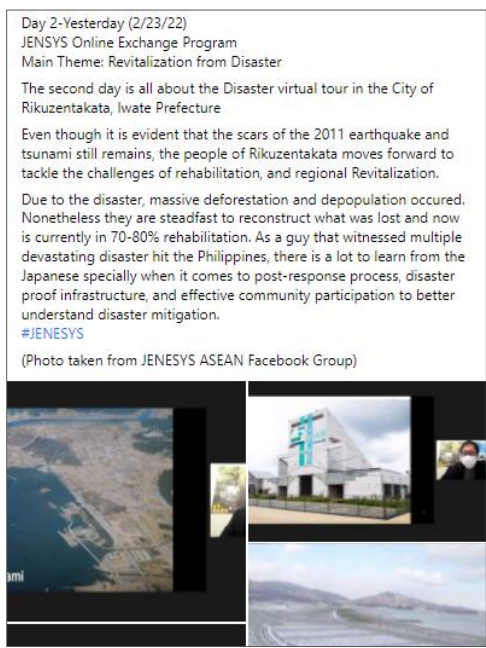
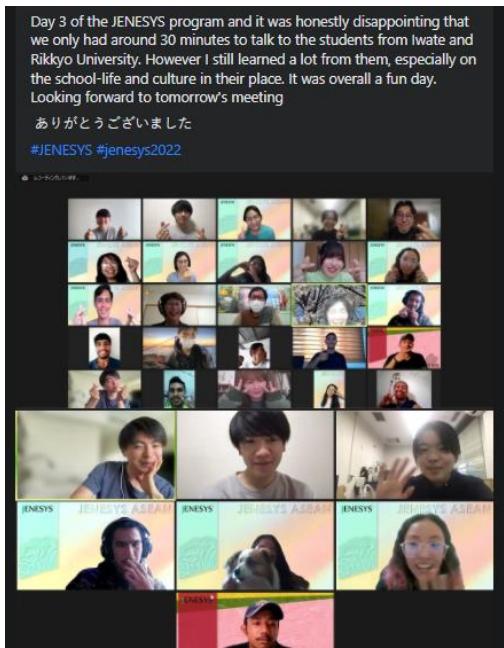
選手団のホストタウンになります。諫早市には大きなスポーツ施設があり、新型コロナウイルス感染症への対策も万全なので、選手たちはきっと素晴らしい経験ができるでしょう。このような非常に有益なプログラムに参加することができ、とても良い経験となりました。諫早市はとても素晴らしい場所でした。特に魅力的だったことは、市内でしか見られない有名なウナギとフルーツの形をしたバス停です。

魅力、例えばユニークな果物の形をしたバス停、うなぎやうどん等地域の文化を知り、もっと諫早市を知りたくなりました。



2021年5月28日
 講義についての発信（Facebook）
 日本は、規律を重んじ、ルールを守ることに熱心な人たちがたくさんいる、とても良い場所です。他の人の意見を尊重し、自然を守ることも大切にしています。新型コロナウイルス感染症の感染爆発が収束したら、日本を訪れて、私の生徒たちと再会できることを願っています。

2021年5月28日
 講義についての発信（Twitter）
 有益なオンラインプログラムに参加できたことを嬉しく思います。環境や防災に関心のある高校生、大学生、社会人にとって、とても素晴らしいウェビナーだったと思います。今回のようなウェビナーにもっと参加したいと思います。



2022年2月26日 (Facebook)
 JENESYS3日目。岩手大と立教大の学生との交流が30分しかなくてとても残念でした。でも学生生活や文化など、多くのことを彼らから学ぶことができました。最終的には楽しい一日になりました。

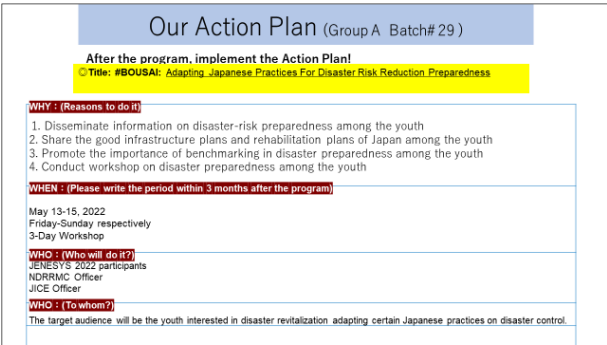
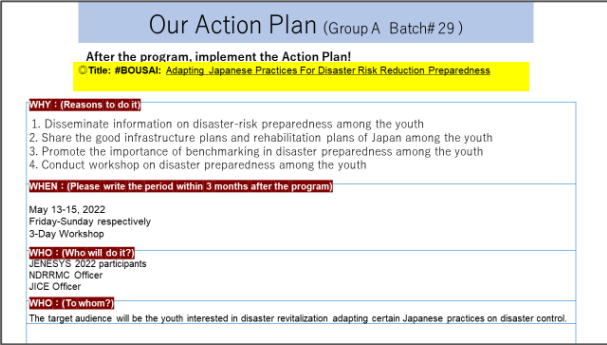
2022年2月24日 (Facebook)
 2日目は岩手県陸前高田市で防災視察バーチャルツアー。2011年の震災の痕は残っているものの、人々は復興に取り組んでいます。震災で多くの森林も市民も失われましたが、震災前の70~80%まで復旧は進んでいます。フィリピンでの壊滅的災害をいくつも体験してきた者として、復興プロセス、災害に強いインフラ、減災のためのコミュニティの参加など、日本人から学ぶことは多くあります。



2022年2月23日 (協力団体 Facebook)
【Day1 in Rikuzentakata フィリピン&東ティモールとのオンライン交流】
 こんにちは、マルゴト陸前高田の古谷です！
 今日から3日間、一般財団法人 日本国際協力センター様のご紹介で、フィリピンと東ティモールの学生の皆さんとのオンライン交流を実施します！
 本来であればホームステイで来る学生さん達に向けて、オンラインで日本のことを紹介するという、外務省推進の『対日理解促進交流プログラム』の一環とのことです。
 初日の今日は高田松原復興祈念公園からの中継を行い、東日本大震災と復興についてお伝えしました。
 約40名の学生の皆さんが参加してくれました。
 参加した学生からは、「復興はどれくらい進んでいるのか」「す

	<p>ぐに工事は開始したのか」などの復興に関する質問や、なかには「松ではなくて、根っこが強いマングローブを植えるのはどうか？」など、文化の違いを表すような質問もありました。明日は「陸前高田の家庭との交流」、明後日は、大学生との交流」を実施します。</p> <p>オンラインでの家庭交流、学生交流は初めての試みなので楽しみです！</p> <p>震災だけではなく、色々な陸前高田・日本のことを知って欲しいと思います。</p>
--	--

6. 最終報告会でのアクション・プランの発表

	<p>日本の災害対策を応用した災害復興に興味のある青少年を対象とします。</p> <p>3 日間のワークショップで、対象の青少年に防災や災害危機管理について学んでもらうことを目標とします。ワークショップでは、双方向的で、たとえばセッションを通して学んだことを公開資料にまとめる、といったことも行います。</p> <p>1 月目 (3 月) : 計画段階 : JENESYS2022 参加者や協力してくれるスピーカーとの調整。</p> <p>2 月目 (4 月) : 準備段階 : 人材確保、委員会議等の準備開始。</p> <p>3 月目 (5 月) : 実施・評価段階 : 日本の災害対策にならった防災に関するワークショップの開催、フィードバックと評価。</p>
	

実施団体名 : 一般財団法人日本国際協力センター (JICE)